

地域包括ケアネットワーク No.77

美作市からの徒然なる地域包括だより

美作市医師会 塩路 康信

2005年の町村合併で誕生した美作市は、南の旧英田町の奥（「奥」という地名です）から兵庫県との県境の志引峠まで49km、鳥取県との県境の右手峠まで47km、面積にして429km²だが、県内で最も人口の少ない市である。地域包括ケアといっても物理的、地理的に困難な状態に直面することはしばしばである。できるだけ多くの職種と共にシステムを構築することが重要である、という当たり前のことが実感される。

行っている業務内容としては、患者基本情報についての共有シート、入退院支援ルールの作成、フローチャートの作成の他、多職種連携の研修会、地域包括ケアに関する講演会、それぞれの企画会議などで、行政を含め様々な職種の方と連携しながら行っているところである。それぞれについての効果については、現在検証中である。このような業務の特徴であるのか、その効果が実感できるようになるのには少々時間がかかりそうである。

私にはどうしても覚えられないことが三つある。一つは人の顔、二つ目は人の名前、三つめは……なんだっけ？これは有名なアメリカンジョーク。よく、三つの〇〇とか、三大〇〇という言い方を耳にする。一つのことを決めようとするとき、その心のよりどころが一つであると、心細い、二つであると、もう一つぐらい、三つがちょうどいい、四つになると多すぎて覚えられない。

地域包括ケアに必要なものは何かと考えると、一つは、継続性、二つめは協調性、三つめは責任性といったところであろうか。地域医療のACCCAに似ている気もするが……。

①地域包括ケアに捧げる熱意もさることながら、「継続性」は重要な要素である。よく言われる、「継続は力なり」と。やり続けることが困難な場合においても、考え続けることは重要である。少しずつでも動いていけば、進んでいく。「愚直に徹する」ことも必要かもしれない。

②「協調性」は事業推進の基礎を支える要素である。三人寄れば文殊の知恵といわれる。一人で考えたってどうにもならない。いかに多く職種に役割分担し、ともに歩んでいくかが重要だ。ホームランバッターばかりでは、試合に勝てない。ヒットを打つ人、送りバントをする人がいないといけない。様々な楽器で曲を構成するオーケストラのように。

③「責任性」は不可欠な要素である。責任を持つというのは、大変な作業である。誰かが誰かに対して責任をとるというのでなく、何か不都合な事象が生じたときに窓口はどこになるのか、だれが担当するのか。こういったシステム作りが責任性の維持につながる。

これら三要素を常に大切にし、立案・企画・実行へと導けるよう心掛けている。様々な職種の方と議論する際、この点はぶれずに行きたいものだ。あえて高尚な目標を掲げなくても、結果はおのずと出てくるのであろう。そう信じている。この原稿の締め切りがそろそろ近づいている。最近やけに忙しい。明日は外来やって、午後から検査があって、あと一つあったような気がするが…なんだっけ？